て，土木自身も今までのやり方を踏襲してたらダメになることがわかってきたから，何とか変えようという動きがある。ところが，絶対に変えたらいかんところもあるだろうと。それは，やっぱり対比で語られないと伝わらないんじゃないかということでやりました。河田先生のおっしゃる技術論のところまで至らなかったんですけど。

三村　衛　氏

三村　私が引き継いだ2000年頃の全体会議の雰囲気というのは非常に重苦しいというのが第一印象ですね。どちらかというと，幹事会に近い雰囲気で，組織も長く続いてくると，官僚化してくるような感じがあって，最初の頃は全然面白くなかったんです。幹事会に来て議論したことを，またFCCの全体会議でやっているという感じがありました。お金は協会から出していただき，予算的には苦しくなくて，みんながざっくばらんに議論できる場というのは，ある種良い意味でのパトロンがいて，自由にやらしてもらっているというときは非常にいいんですが，余裕がなくなってきたということもあってか，今の世間の風潮と一緒で，金を使うのなら，そのアウトプットは何か，形としてきちっと説明して，われわれを納得させろというようなことを言われ続けた2年間だったという気はします。なぜこうなったのかというのはよくわかりませんが，先程，河田先生がおっしゃった希望，「今苦しいけど，将来これがあんのや。」というのが，恐らくみなさんの中でもピシッと見えてないからだと思うんです。

西田　新しい価値観をつくっていったらいいんですよ。

河田　その価値観を共有する人たちがソサイエティをつくったらいいんですよ。土木学会ってそういうことだと思うよ。あるところで認められなかったら，シャッポを脱ぐんじゃなくて，違う組織でその価値観をきちっとつくっていくような武器にしたらいいじゃない。だから数が力じゃなくて，そういう将来に向かって伸びていく方向をみんなが共有したら，絶対うまくいくと思うんだな。

隅野　価値の創造というんですかね，カッコよく言うとね。当初も関西支部の一部の先生は，FCCは過激派やって言うてたけどね。自分たちが価値をつくる。そのためにはいろんな軋轢が起きるだろうけど，軋轢を恐れてたら何もつくれないですよね。

池亀　自分自身の脱皮というんですか，変わっていく部分って思いっきり変わっていかないと，新しい価値観は生まれないんじゃないかなと思います。なくなってもなんの未練もないから，それでいこうと。そういうところがやっぱり次のものを生み出す可能性が出てくるんじゃないかと思います。

河田　改革する人というのは若いときからそのマインドを持ってる人ですよ。志のあるときから，言い続けなきゃいけない。そしてポジションについたとき変えられるんだ。そういう継続性というのは絶対要るよね。若いときは黙ってて，あるところまで来ていきなりやれるかといっても，そんなうまくいくわけない。だから土木学会を変えようというんだったら，若いときから「こうあるべきだ」「そうじゃないのか」っていうことを侃々諤々やっていく中で，自分の力をつけていくという，そのプロセスが大事じゃないですか。それは別に学会活動だけじゃなくて，自分の仕事にも通じる話や。

◇今のFCCに改革力はあるか？

西田　FCC活動の一番の根本にあるものは，改革力だったと思うんです。今ある土木がこのまま続いていっていいんであれば，もう一度理念なんて考える必要があったか。今なぜ理念を考えねばならないのかというと，新たな理念を立てねばいけないというテーゼがあるんで，それに取り組まないといけないという意識があった。

河田　それには，それぞれが仕事をしている中で，ベストな解を求める努力がいると思う。単に，理念を変えたからって現状が変わるわけじゃない。理念というのも自分の仕事の中のボトムアップでもってこないと絶対いけない。そうでないと机上の空論，標語になってしまうんだ。だから，自分の仕事を通してのあるべき姿っていうのを，みんなが持ち寄って，共通項をミッションにするという作業をやらないといけないわけ。

三村　今のメンバーには，シビル・コスモスの理念がきちっと受け継がれてない――わかってるはずなんだけれども，それをもう一度きちっと咀嚼しないといけないのかなと思ってるんです。それで時々，昔やった議論をまたやってるんです。前に済んだことと片づけるんじゃなしに，今のメンバーが自分のこととして議論して身につけていかないといけない。

河田　それはそう。それぞれの人にとって血肉化を図らないかんね。いきなりドリルでやってもだめで，ラーンという，学んで，基礎的なことを知った上でドリルをやって，エクササイズをやるんですね。この三つのプロセスをやらないで，いきなりドリルやっちゃうと，応用が効かなくなっちゃうんだ。基本をきちっと学ぶのは大変重要じゃないですかね。

池亀　僕はFCCは内なる啓蒙でしかないから，その啓蒙が済んだ人は卒業するべきと考えています。さらに卒業して何かするんだったら，次のステップ，社会に対してもっと踏み込んで何か行動をする。それが実際の仕事の中であれば，それでいいと思うんだけど，そういうことをもっと明確にしたほうがいいんじゃないかな。そこで何か議論されようと，それは次の世代が受けて，真面目にボランティアな気持で来て